

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「学校は、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」という項目では、「あてはまる」と回答している保護者は76%、生徒は79%であった。高大連携行事や校外実施の大学説明会、オープンキャンパスの案内等、進路情報の提供に努めた。校内での大学説明会を前年度から改良したり、進路指導部による講演会等、進路意識の高揚を図るための行事を新たに実施した。</p> <p>「学校は、生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている。」という項目では、「あてはまる」と回答している保護者は78%、生徒が78%であった。1, 2年生に対して進路指導部としてさらに担任・学年団をサポートして意図的、系統的な指導を実施していく必要がある。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学センターなし及びあり推薦入試、AO入試の利用 ・土曜講座、補習、放課後センター演習の充実 ・進路ノート、進路サポートの活用 ・高大連携、校外行事への参加の促進 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、各教科、対外機関との連携強化 ・企画部、理数科部との連携による行事等への取組 	
6 目標達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定 あるいは指標	
①適時性を重視した進路情報の収集・分析・提供	①AO・推薦・一般入試、センター試験の結果分析	
②補習、サライ講座、センター演習、小論文・面接指導の充実	②模試や入試結果の分析と現状把握と対策	
③SSH及び総合的な学習の時間との連携	③SSH及び総合学習の推薦入試への利用	
④他校との連携及び高大連携講座・行事への参加	④高大連携講座や対外行事に参加した感想	
8 取組み状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①「進路ノート」の活用と四半期ごとの構造図の作成	①適時性を重視した進路情報の収集と提供	A (B) C D
②推薦・AO入試の小論文指導、面接指導の実施	②補習や講座等の校内体制の確立	A (B) C D
③学部学科別が「ダンス、職業講話、校内大学説明会、高大連携講座、名大入試研究講座等の行事の実施	③SSHや総合学習との連携	A (B) C D
④受験生への切り替えのための「集中勉強会」の実施	④校内外行事活動への参加	(A) B C D
11 成果・課題	<p>OPTAと協力し、校内で大学説明会を実施した。2日間実施し、参加大学を14校に増やし、2展開とした。放課後希望者対象であったが、延べ生徒435名と保護者151名が参加した。名古屋大学主催の「名大 MIRAI GSC」に12名、岐阜大学工学部主催の「宇宙工学講座」に5名、岐阜大学地域科学部主催の「高校生のためのオープンカレッジ」に11名、地域医療センター主催の「今、ともに考えようへき地医療」に2名参加した。</p> <p>進路選択・検討の機会を提供することにより進路意識の向上を図ることができた。</p> <p>○部活動引退後の5月下旬の土日2日間に、受験生へと切り替えるため毎日8時間勉強する「集中勉強会」を実施した。81名の生徒が参加し、受験に対する意識高揚と集中力向上を図ることができた。</p> <p>▲授業の内容が十分定着していない生徒に対して平日補習を実施し、授業の内容や基礎学力定着を図っている。ここ数年学力差が大きくなり、補習内の学力差もあり、補習の内容の見直しが必要である。</p> <p>▲1, 2年生の「進路ノート」を新たに作成し、将来の考察や自己を見つめる機会に利用するなど進路指導に活用できた。進路ノートを含め進路行事の関連性が分かる四半期ごとの構造図を作成したが、他の行事の関係で計画通りに実施できなかつたり、クラス独自のホームルームが少なくなり課題が残った。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	総合評価 A (B) C D	

- 「進路ノート」の意図的・系統的活用と運用。
- 基礎学力定着を更に図るための補習等の実施内容の検討。
- 教員の働き方改革と進路行事との兼ね合いの検討。

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月29日

【意見・要望・評価等】

- ・進学校で大部分の生徒が大学等に進学することから、確かな学力を身に付けさせてほしい。ただ、キャリア教育の観点からも、知徳体もバランスよく育んでほしい。
- ・海外で活躍する人材だけでなく、地元を支える人材の育成にも尽力してほしい。
- ・地元の人材の話聞き、地元を知る機会を継続してほしい。